

はほとんどハエの姿を見ないようになつた。「わがアイデアも大したもの」と鼻高々。

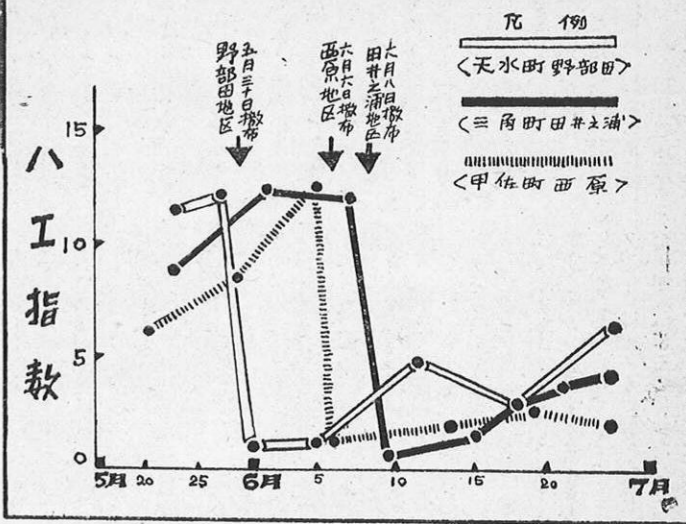
本誌の先号では、衛生部長が十軒か二十軒ではその効果も少ないので、市町村ごとで一斉撒布されるよう書いていました。が、今の実例では、自宅だけの一軒で薬剤撒布されて十分効果が上がることが立証されたわけだ。

中国に在住された方はご承知のとおり、田舎の飯店等に入ると、イエバエの多いのに驚いたものです。彼等はハエがつかないような食物はうまくないと言いつい、たくさんハエが食物についていても少しも意に介せず、平

噴霧器で天井へふきつける



薬剤撒布によるハエ指数の変化



気で食つている姿をよく見かけたもので、その衛生観念の低いのにあきれたものでしたが、その中国でさえ、最近はいエバエが一匹もないということ、さぞ伝染病が減少したろうと思われまます。

イエバエは、汚物から食品へと飛び歩き、赤痢、チフスなど消化器系の伝染病原菌を媒介するほか、小児マヒのウイルスをも媒介しますので、一日も早くイエバエのいない熊本県をつくりたいものです。

(衛生部)

住宅難

県の住宅対策は？

県内の住宅不足数は約四万五千戸と推定されているが……

県では約四万五千戸と推定されている住宅不足を、昭和四十五年までにはぜひ解消したいと努力を続けているが、まず住宅対策予算からみてみよう。

県では昨年度の住宅対策予算二億八千九百万円(繰越しを含む)を、さらにふやして、本年度当初予算約三億六千四百万円余の住宅対策予算を組み、次の事業を行なうこととした。

公営住宅(いわゆる県営住宅市町村営住宅と云われるもの) 八一三戸(うち県営二二戸)

建売住宅(住宅金融公庫の融資を受け、県が建設する分譲住宅) 五〇戸

宅地造成分譲(住宅金融公庫の融資を受け、県が用地を買収し、宅地として造成の上一般に分譲するもの) 継続五〇戸、新規五〇戸

改良住宅(国の補助を受け、不良住宅を耐火構造の家に建て替えて、元の居住者に賃貸するもの) 八四戸、その他(農山漁村住宅、公団関係住宅等) 農山漁村住宅や、公庫融資賃貸

県営住宅

理想的なマンモス団地をつくるため、熊本市田崎町、八島町一帯に、本年度から昭和四十年までの間に、敷地約五万九千五百平方尺のいわゆる「花陵団地」として事業を始めた。

敷地の買収はすでに終り、本年度中に鉄筋四階建て、ブロック造り二階建て、平家などの公営住宅百二十二戸をこの団地に建設する。

住宅、及び公団関係住宅などの建設の促進、現場管理、援助等。

市町村営住宅

今年度は、熊本市をはじめ、二十三の市町村が、合計六百九十二戸の公営住宅を建設することとなっており、この指導を積極的に進める。

建売住宅

今年度は住宅金融公庫から五十戸の割り当てを受けたので、建設を早く完了して購入希望の方に分譲できるように、鋭意努力している。

これは、用地費、建築費を住宅金融公庫から融資を受け、不足分を県が立て替え、建物を完成のうえ購入希望者に分譲する事業。住宅金融公庫の低利資金を利用することができ、さしあたり建設費の半額程度の自己資金があれば自分の家を持つことができるので、大変よろこば

宅地造成分譲

全国的に、住宅が建たない理由の一つに、宅地の入手難が挙げられているが、この対策として、宅地造成分譲の事業を今年も行なうよう予算を計上した。

個人で土地を買収して宅地を造成することは非常にむづかしいし、又価格も割高になることは当然。

そこで、県で土地を買収取り盛土をし、擁壁を造り、側溝を掘り、道路を整備し、電気、水道、現場も埋めるなど万全の措置を講じ、一団地としてまとまった理想的な住宅団地をつくるもの。

これを宅地難のため家を建てられずにいる方に分譲して少しでも住宅難を緩和したいというのがこの事業の目的である。

この事業は一昨年から継続して行っているが、本年度はすでに五十戸分分譲を終つたので改めて五十戸分の土地を買収し来年造成のうえ分譲する予定である。

住宅地区の改良事業

住宅金融公庫の資金を利用して、賃貸住宅、中高層耐火建築物、防災街区建築物、個人貸付住宅、農山漁村住宅、産業労働者住宅等を、一般の人々や団体等が建築されているが、県はその窓口となり、又、現場の指導や図面の審査等も行っている。

又、住宅公団の特定分譲住宅の建設に当たつても、現場の工事監理を委託したりして、県内の住宅事情好転のために絶えず努力している。

(建築課)

ビタミン剤の知識

最近ではビタミン剤の氾濫だ。単独のビタミン剤や、いろいろのビタミンを含んだ複合剤や総合剤がキラ星のごとく……

♣ ところで「アア疲れた。ビタミン剤でも飲んで元気を付けよう。」ということになりやすいが、疲労回復の最良の方法は、何よりも疲労の原因をとりのぞくことが一番。過労であれば休養する。

睡眠不足であれば熟睡する。「マージャンでクタクタだ。」という場合、ビタミン剤だけにたよるのは愚かなことだ。

♣ 薬を使う場合は、医師に相談してから使うのが一番いい。購入する場合は正規の薬局か薬店で、のみ方などをよく聞くこと。

また、年令、体重、体質、症状等により、のむ量も多少違ってくるから、説明書をよく読むこと。

♣ のみ方も薬によつていろいろ違う場合があるので、指示どおりにのむこと。

例えば「通常一日一錠(二錠を、食後直ちに、かまらずに服用)等」と書いてある。かまらずにというのにも、ちやんと医学的な意味があるものである。

♣ 保存にも注意が肝心。湿気や太陽光線や、高温等のため変質していることがある。ビタミン剤も長く置いたため変質してキキメのなくなつている場合があるから、栓はしっかりとしておくこと。

♣ うんとスタミナをつけようと、ビタミン剤を普通量の数倍も飲む人がいるが、たくさん飲んだからといって、それだけ効くというものではない。

必要量以上は尿と一緒に排出されるものもあるし、場合によっては蓄積されて害になるものさえある。

(衛生部)